

山城国分寺跡とは？

天平16(744)年に都が難波宮なにわのみや(現在の大阪市)に遷された後、この地は山城(山背)国分寺こんどうとして造り替えられます。大極殿は国分寺の金堂として使用されるとともに、七重塔など新たな建物も建てられました。寺域は東西約275m、南北約330mの規模で周りは築地塀で囲まれていました。



国分寺の復元CG



現在の国分寺跡に残る塔の礎石



出土した奈良三彩

表 『続日本紀』に記された天平12年から17年の聖武天皇の動き

宮年	天平12(740)年	天平13(741)年	天平14(742)年	天平15(743)年	天平16(744)年	天平17(745)年
平城						
恭仁	橘諸兄の相索別業行幸 都の造営を宣言 恭仁宮行幸 元日朝賀 平城の市を移す 国分寺建立の詔 宇治・山科行幸 と名づける 大養徳恭仁大宮	紫香樂宮へ恭仁京東北道を開く 元日朝賀 風雨で宮中破損 恭仁宮で元日朝賀 壺田永年私財法 平城の兵器を移す 官人に恭仁か難波か都を問う 恭仁宮造作停止	大仏造立の詔	甲賀寺に大仏の体骨柱建てる 新京に大楠檜を問う 官人に恭仁か平城か都を問う 恭仁宮に灰除 恭仁宮を固守 兵器を平城へ移す		
紫香樂						
難波	難波宮行幸				恭仁宮より高御座・大楠・兵器運ぶ 難波皇都の勅	



恭仁宮の復元CG



右は聖武天皇直筆の字（正倉院所蔵『雑集』）から各文字を抜粋して作成しました。

恭仁宮とは？

天平12(740)年、聖武天皇しょうむによって恭仁京くにきょうが造営され、平城京から都が遷されました。恭仁宮では「**国分寺建立の詔**」が出され、「**壺田永年私財法**」が定められるなど、歴史上の重要な舞台となりました。現在、恭仁宮跡及び山城国分寺跡は国史跡に指定されています。

放浪の聖武、「大引越」事業

天平13(741)年には、役人に恭仁京の土地を支給して平城京から引越すように命じました。人だけでなく、建物や瓦なども平城宮から恭仁宮に移築されました。恭仁京への遷都から6年の間に難波宮、紫香樂宮、そして平城京と何度も都が移されました。



恭仁宮の構造

だいり 内裏

天皇が住まい、儀式などが行われた場所です。恭仁宮では、東西2つの区画があり、一方は太上天皇の住まいと考えられています。これは恭仁宮だけで見つかった特殊な構造です。

だいくでん 大極殿

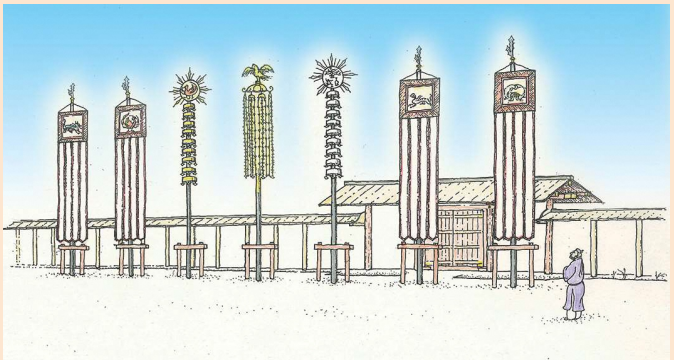
宮の中心にあたる場所で、重要な儀式などが行われました。恭仁宮の大極殿は築地回廊とともに平城宮から移築されたものです。特別史跡平城宮跡(奈良市)の大極殿の復元建物は、恭仁宮跡の調査成果を参考に建てられています。



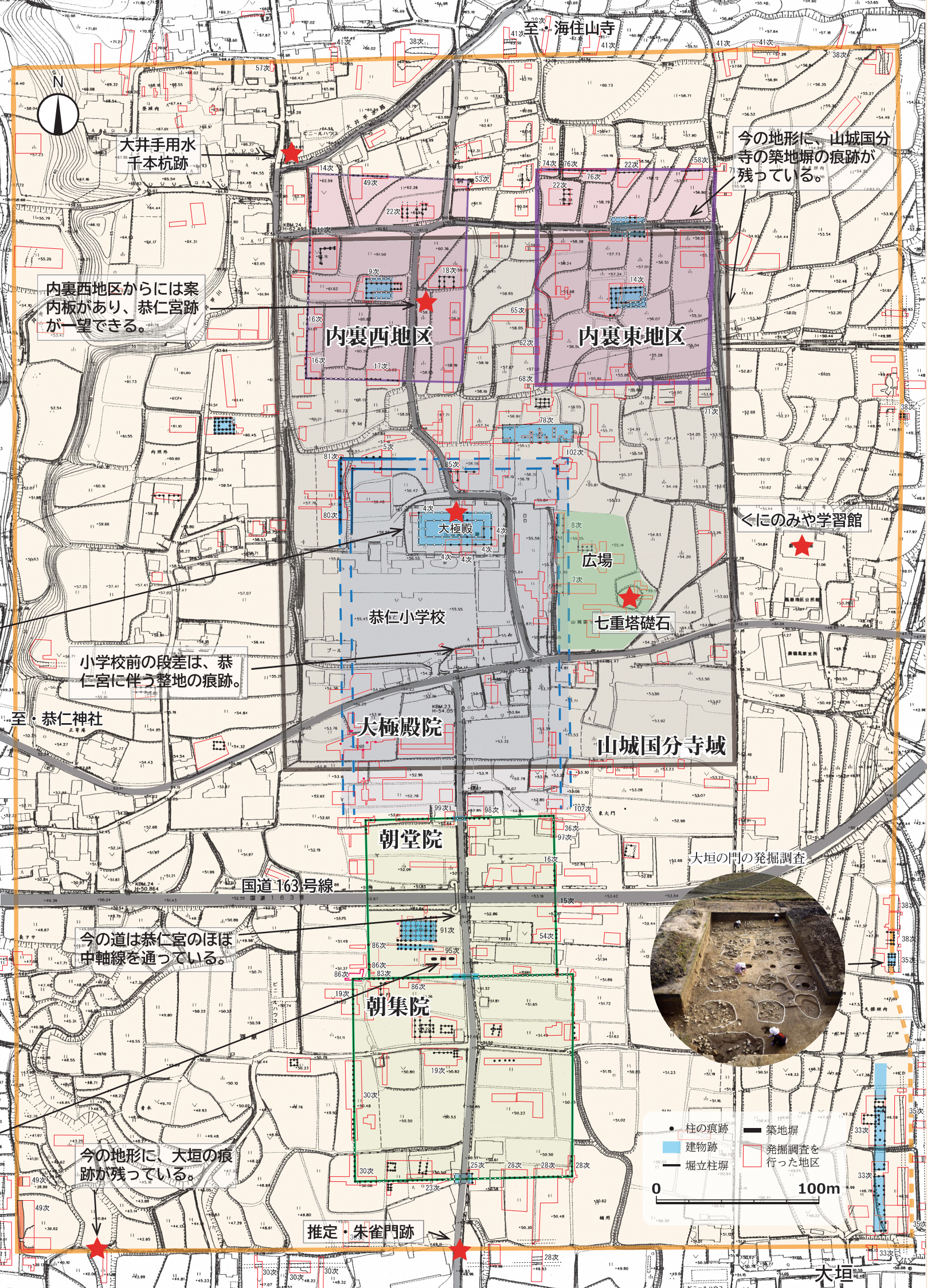
大極殿の復元イメージ(手前は恭仁小学校)

ちょうどういん ちょうしゅういん 朝堂院・朝集院

朝堂院は高官が儀式の際に参列したり、執務を行う場所、朝集院は官人が儀式の際に待機するところでした。朝堂院の南端では、元日の儀式で使われた旗を立てた遺構(宝幢遺構)が見つかります。



宝幢のイメージ



恭仁宮のために焼かれた瓦(左)と、国分寺で使われた瓦(右)

天平の甍

恭仁宮跡の発掘調査で、最も多く見つかるのは屋根に葺かれた瓦です。これらの中には、平城宮で使っていた瓦のリサイクル品も含まれていますが、恭仁宮で新調されたものが中心です。

中には「恭仁宮(式)文字瓦」と呼ばれる瓦工人の名をスタンプした瓦もあります。これらは、天平12(740)年から15(743)年に造られた、まさに天平の甍といえるでしょう。



六人大 出雲 大伴 中臣

28種類の文字のスタンプが確認され、合計1000点以上が出土しています

おおがき 大垣

宮は大垣という築地塀に囲まれていました。東西560m、南北750mで、平城宮の約2/3の規模です。塀の本来の高さは7mとも10mとも言われています。